

神様からのおくりもの

中 二

皆さんは、「知的障害」という言葉を知っていますか。私の妹は小学校二年生のときに知的障害だということがわかりました。知的障害とは、読み書き、計算など日常生活や学校生活を送るうえで、頭脳を使う知的行動に支障があることです。

私の妹は、幼稚園の年長までは少し遅れているくらいだろうと思われていました。けれど、他の友達はできているのにあまりにも遅れていることがわかりました。妹が年長のとき、私は小学校三年生でした。母と父は、私を心配し、

「違う学校に入学させようか。」

と、言ってくれました。けれど、私は妹と一緒に学校へ通うことをとても楽しみにしていました。

私は、母と父にすぐ、

「嫌だ。同じ学校に行きたい。」

と、自らお願いしました。母と父には、私からそんな言葉が出るとは思わなかったと言われました。妹と私がきちんと気持ちを伝えたことで、同じ

学校に通えるようになりました。それでも母は、妹の入学までの間、通常学級にするか特別支援学級にするかを悩んだそうです。そして、母は一年生の間だけ様子を見ることを決め、妹は通常学級に通うことになりました。

楽しい学校生活を夢見ていましたが、私にも妹自身にも、予想していたものよりもつらいことが待っていました。妹は、学校で教わる勉強の計算、ひらがなやカタカナを理解することができませんでした。そこからきたストレスで学校が嫌になり、私に当たったり、けんかをしたりのようになってきました。また、妹は元気で人が大好きな子供でした。ただ、人との距離感が上手につかめないため、周りの子たちから、

「妹にけられた、たたかれた。」

などと、よく言われるようになりました。妹と同様、私もストレスがたまり、妹にやつ当たりをしたり、けんかをしたりすることが続き、とても暗い気持ちになることが多くなりました。

しばらくそのような日々が続く、私は五年生に、妹は二年生になりました。母が私と妹のことを考え、妹はその年から特別支援学級に通うことにな

りました。妹は毎日嫌で行きたがらなかった学校が、少しずつ楽しくなり始めていました。特別支援学級は、一クラス五人から七人くらいしかいなかったため、その子に合った勉強内容などを教えてくれ、妹にとっては、毎日が楽しい学校生活に変わっていったのです。妹は前よりずっと明るく元気になりました。そして、妹のことをわかってくれ、信頼できる友達、親友もできました。私にとっても家族にとっても、はじめは不安しかない特別支援学級でしたが、今は本当に特別支援学級にして良かったと思っています。

私の家族は、妹が生まれてくれたことに感謝しています。私たち家族は、妹のような障害のある子は、神様が「この人たちならしっかり育てられる」と考え、私たちのところへ授けてくれたのだと思っています。私は、妹を通して知的障害のことを知るまで、体が不自由な人などを差別してしまったことが、自分で意識していなかったとしても、態度に出ていたことがあると思います。しかし、私は妹の辛さを知り、勉強などがついていけない人も、体や目や耳が不自由な人も、「みんな一生懸命に生きている。周りの人と同じように、周

りの人以上に努力をしているんだ。」ということから理解することができました。私は、二度と差別することはなくなりました。世の中で今までに差別したことがある人は、多くいることでしょう。でも、私と同じように、きつとだれでも変わることができるとは思いません。妹と私の話を通して、多くの人に変われるんだということを伝えたいです。そして、変われることを気付かせてくれた妹は、神様からのおくりものです。

私たち家族は、これからもずっと、ずっと仲良くしていきたいです。